

週報

令和 5 年 7 月 21 日
2023~2024年度 No. 3

2023-24年度 国際ロータリーのテーマ



世界に希望を生み出そう

国際ロータリー会長 ゴードンR.マッキナリー

プログラム

S A A 藤川 博士君

☆点 鐘

☆ロータリーソング斉唱

「それでこそロータリー」

☆四つのテスト唱和 職業奉仕委員会

☆食事懇談

☆会長の時間

☆幹事報告

☆委員会報告

①親睦委員会

・スマイルボックス報告

☆部内卓話

「新会員卓話」 山口 裕之君

☆点 鐘

現在会員					28名					前々回の欠席者(7/7)					7名	
本 日	出席	15名	欠席	7名	免除(a)欠席	2名	免除(b)欠席	4名	出席率						68.18%	
	出席	15名	MU	0名	免除(a)MU	2名	免除(b)MU	2名	修正出席率						70.83%	
月別出席率%	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6				
	本年度 前年度	82.97	81.16	84.53	81.69	91.84	91.44	90.16	93.48	96.87	83.80	85.93	89.39			

例会場 カンパーナホテル TEL(0959)72-8111
例 会 金曜日(12時30分~13時30分)
事 務 所 長崎県五島市末広町8-4
福江商工会議所内 TEL(0959)72-3108

会 長 平 村 和 弘
副 会 長 山 里 一 郎
幹 事 松 岡 孝 博
雑誌:会報委員長 寺 澤 信 義

会長の時間

会長 平村 和弘君

それでは、会長の時間を始めさせていただきます。

今回は、車の装備の中で今一番必要なカーエアコンについて簡単に説明いたします。

エアコンシステム内のエアコンガス（冷媒）の流れに沿って、コンプレッサーを起点として説明していきます。

お配りの資料をご覧ください。

コンプレッサーは、気体と液体の性質を利用したエアコンシステムの圧縮工程を担っています。エアコンガスを低温低圧のガス状冷媒から機械的に圧縮し、高温高圧のガス状冷媒へと変化させる役割があります。

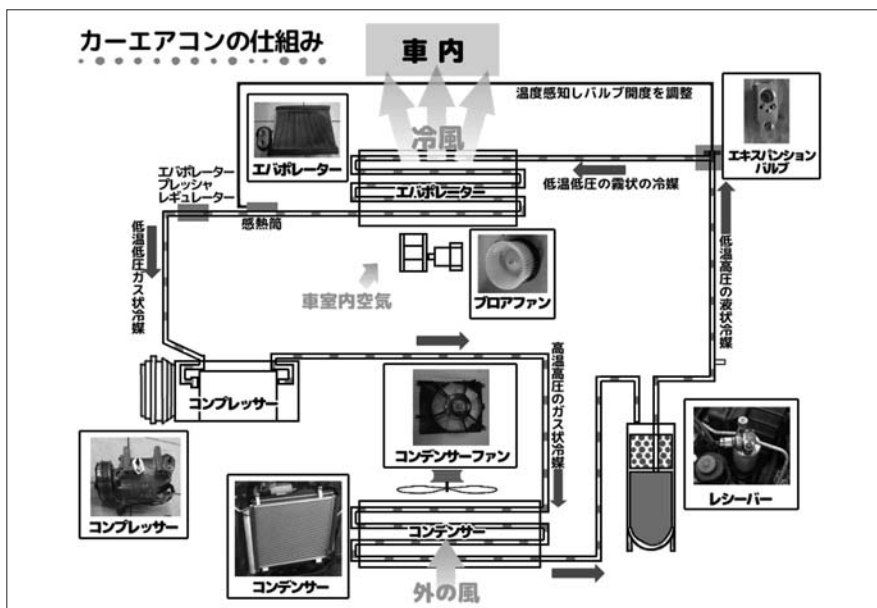
高温になってしまうのは圧縮工程なので避けられないので、次の工程にコンデンサーがあります。高温高圧となった冷媒を、細い管がくねくねと配置されたコンデンサー内を通す事で熱を放出し、低温高圧の液状冷媒へと変化させます。コンデンサーはFバンパーの直ぐ後ろに設置されており、走行する際の風、及びコンデンサーファンの送風によって冷やされています。コンデンサーで冷やされた低温高圧の液状冷媒を蓄えるのが、レシーバータンク（リキッドタンク）です。レシーバータンクには液状冷媒を蓄えると同時に、余分な水分や不純物を取り除く役割もあります。レシーバータンクに蓄えられた高圧の液状冷媒を、エキスパンションバルブに送ります。エキスパンションバルブでは、液状冷媒を一気に膨張させ低圧の霧状にします。この時の気化熱によって温度が下がります。この低温低圧のガス状冷媒を、エバポレーターに送ります。

エバポレーターは車の室内に送風される空気の通り道にあり、ここで冷やされた冷風がエアコンの風として出てくる訳です。エバポレーター以外の部品は乗用車で言えばボンネット内に在り、目視で確認することが出来ませんが、エバポレーターは室内のインパネ内部に在ります。その為、エバポレーターの点検や交換をする場合にはインパネ、ダッシュボードを全て外さないといけないので、大変な作業となります。

経過劣化した車両でエアコンが冷えなくなった場合、修理が必要となります。原因は様々で、今回説明した部品がどれか一つでも悪いと冷えなくなりますし、それぞれを繋ぐ配管からガス漏れを起こしても、冷えなくなります。ガス漏れの場合、漏れている場所を修理して治ることもありますが、その他の場所から漏れ出すこともあります。通常、一番弱い所からガス漏れを起こしますが、そこを修理すると2番目に弱いところから漏れ出すという訳です。

ある程度の年数が経った車両では、エアコン修理が毎年のように出る場合もあります。もちろん修理する箇所は違うのですが、毎年壊れると思われるかもしれません。しかしながら、様々な部品と配管で構成されているエアコンシステムでは、システム全部を交換しない限り致し方ないこともあると、ご理解してもらえればと思います。

以上で会長の時間を終わります。



※エアコン配管内を動く冷媒の色：青=低圧、赤=高圧を示します。

図で分かるように、エアコンシステム内を冷媒と呼ばれるエアコンガスが循環しています。

幹事報告

幹事 松岡 孝博君

【当クラブ関係】

1. 次週7月28日(金)ガバナー補佐訪問となっております。例会終了後、第3回クラブ協議会を行いますので、各理事、役員委員長は発表をお願いします。なお、欠席される方は代理の人でお願いします。当日は、クールビズ可とします。
2. 次々週8月4日は、ガバナー公式訪問があります。当日は、ネクタイ着用でお願いします。

委員会報告

出席報告

- ◆ 7月21日(免除(a)欠席者)
中村 博義君 植松 郁雄君
- ◆ 7月21日(免除(b)欠席者)
谷川 和啓君 佐々野邦久君 清瀧 誠司君
吉田 泰之君
- ◆ 7月21日欠席者
小畑 和男君 坂井 成光君 柳田 靖夫君
山下 克己君 才津 喜彦君 中村 吉廣君
神之浦文彦君

親睦委員会

スマイル報告

- ◇ 山口 裕之君 本日の新会員卓話、宜しくお願
いします。
- ◇ 吉田 泰之君 7月に行われた取切戦で優勝い
たしました。
- ◇ 平村 和弘君 山口裕之さん、本日の卓話宜し
くお願いします。
- ◇ 山里 一郎君 ”
- ◇ 松岡 孝博君 ”
- ◇ 戸田 博之君 ”
- ◇ 片山 雅文君 ”
- ◇ 西上裕一郎君 ”
- ◇ 橋本 武敏君 ”
- ◇ 三村 剛孝君 ”
- ◇ 寺澤 信義君 ”

- ◇ 有川 真史君 ”
- ◇ 藤川 博士君 ”
- ◇ 中村 栄治君 吉田泰之さん、スマイル会優勝
おめでとうございます。
- ◇ 張本 民雄君 ”
- ◇ 山下 実君 早退奉仕。

合計 18,000円
通算合計 60,000円

部内卓話

「新会員卓話」

山口 裕之君



みなさんこんにちは。

ただいまご紹介に預かりました、山口裕之でございます。本日は新会員卓話ということで、みなさんの前でこうしてお話をする貴重な時間をいただき、誠にありがとうございます。

5月の入会時にも簡単に自己紹介をさせていただきましたが、まずは前任の森田から入れ替わりでの入会とはいえ、この福江ロータリークラブにみなさま快く迎えてくださり、本当に感謝申し上げます。私自身、初めてのロータリークラブの経験であり、右も左も分からず、とまどいながらの状況ですが、毎回刺激的な経験と勉強をさせて頂いており、ありがたく思っております。ご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、引き続きよろしく申し上げます。

さて、今回新会員卓話として改めて自己紹介をさせていただくとともに、今年度のクラブ運営方針の主題となっている『希望の灯(ひ)』について話をしてくださいと、橋本プログラム委員長より厳命を受けております。上手く話せるかどうか分かりませんが、しばらく耳を傾けていただければ幸いです。

私は、昭和50年の1月に長崎市の西小島という所で生を受けました。父は松下電器関係の会社に勤めるサラリーマンでしたが、その仕事柄、家に

は『ナショナル』とか『パナソニック』の家電製品が溢れておりました。私が小さい頃、当時先進的な家電製品であった『VHSのビデオデッキ』や『ビデオカメラ』など、世の中一般に普及する前に普通に使用できていましたので、当時はかなり誇らしげに思っていた事を記憶しています。母は雲仙市の小浜町の出身です。小さい頃からよく小浜の祖母の家に遊びに行っていました。家の中のお風呂が普通に温泉で、町全体が硫黄の匂いと湯気が立ち登っている事に、驚きを隠せませんでした。兄弟は、姉が一人で小学校の先生をしています。

西小島という場所がよく分からない方も多いと思いますが、わかりやすく言うと思案橋のすぐ近くに『丸山公園』という小さい公園がありまして、そこから歩いて5分という比較的繁華街に近い場所になります。そこから小・中・高と山に向かって坂道をずっと上って通学をすることになるのですが、小・中学校は近隣の学校で、高校は『長崎県立長崎南高校』を卒業しました。運動・スポーツがもともと大好きでしたので、ずっと野外スポーツの部活をしていたのですが、飽きっぽい性格なのか、良く言えば好奇心が旺盛と言えるのかどうか、小・中・高とすべて違うスポーツをしていました。

小学校の時は、1学年2クラスしかない人数が少ない学校でしたので、部活自体が『サッカー部』しかなく、必然的に『サッカー』をやっていました。中学校では、まだ当時の野外スポーツでは野球が主流でしたので『軟式野球部』に入部し、白球を追いかけていました。高校では野球を続けるかどうか悩んだのですが、このまま青春期の高校生活を坊主頭で過ごしていいのだろうかと自問自答し、最終的には野球部を諦め『ラグビー部』に入部しました。なぜラグビーかというと、ラグビースクール経験者ももちろんいますが、比較的高校から始める人が多いスポーツで未経験者でもガッツと体力があれば、十分に渡り合えるスポーツだったからです。

小・中学校の部活では、可もなく不可もなくという成績で、特筆すべきエピソードも特段ないのですが、高校の南高ラグビー部ではそこそこ頑張っていました。当時のベスト4といえば、長崎北陽台、長崎北、諫早農業そして西陵高校でした。その次に数えられるくらいの実力はあったと思いますが、いつもこの4強に阻まれベスト8どまりだったことが多かったと思います。一番印象に残っているエピソードを1つお話しすると、高校3年生

の最後の全国高校ラグビーフットボール大会長崎県予選（いわゆる花園予選）の時です。1回戦から当時4強の一角を担っていた、長崎北高校との対戦となってしまいました。それこそ高校最後の試合でしたので、みんな『絶対勝つ』という思いで試合に臨んだ事をよく覚えています。試合開始から互角の白熱した試合を展開しておりました。前半は長崎北高がペナルティゴールを1本決めて0-3と3点のビハインドで折り返しました。後半も両チーム得点が入らず、ラグビーの試合でこれほどのロスコアは珍しいのですが、終了5分前くらいに味方のペナルティキックのチャンスが舞い込んできました。キッカーはサッカー経験者であり、キック力を買われていた私が蹴っていましたので、『よしヒーローになってやる』と気合いを入れペナルティキックに臨みました。自分への期待と、みんなの願いを一身に背負い蹴ったボールは、何とゴロのボールが“コロコロ”と転がって行ってしまいました。決して簡単な距離ではなかったことは事実としてありますが、それ以後、試合終了まで再びのチャンスは見出せず、チームはそのまま0-3で負けてしまいました。当時の仲間会った時は、今でもそのキックのことを“お酒のツマミ”にされてしまいますが、この試合は当時その年のベストゲームにあげられる程のナイスゲームだったということは申し添えておきたいと思います。

その後、大学は福岡の九州大学経済学部に進学しました。『人生の夏休み』とも例えられる大学生活を謳歌するため、それまでとは全く方向性の異なる『テニスサークル』に入会し、大学生活とサークル活動、そしてアルバイトと、様々な社会勉強をさせてもらいました。一番のヒットは、そのサークルで今の妻を見つけた事だと思っています。

そして、いよいよ社会人です。当時は就職氷河期の真っ只中ではありましたが、周りの同郷の友人が福岡や全国転勤のある大手企業など、次々と就職を決めるなか、わたしは漠然と長崎に帰りたいなと思っており、平成9年4月に当時地元で代表的な上場企業であった十八銀行に入行しました。入行当初の配属店は、自宅近隣の支店に配属されることが多く、私も振り出しは自宅から歩いて10分の『思案橋支店』でした。今でこそ考えられませんが、当時はまだ残業も多く、夜の10時くらいまで仕事をするのは当たり前で、その後更に持ち帰って仕事をするということも日常茶飯事でした。しかし、そんな中でも夜10時に仕事が終

わって、そこから『さあ飲みに行くぞ』という先輩のお声かけも多々あり、笑い話ですが通勤時間が行きは10分なのに、帰りは2～3時間かかるという不思議な事象も結構な頻度で起きていました。

仕事の話をしめすと、思案橋支店で融資業務に従事した時は、個人事業主や小規模企業のお客様を担当させていただき、2か店目の諫早支店の時には、中小企業や病院関係のお客様を担当させていただきました。3か店目の本店営業部では、長崎を代表する中堅企業の皆様を担当させていただき、様々なお客様とのお付き合いや、いろんな経験をさせていただき毎日が刺激的で、とてもいい勉強になりました。その若い時の経験が、私の銀行員生活の礎となっていることは言うまでもありません。

銀行生活も勤続25年を過ぎ、急激な環境変化のもといろんなことがありましたが、やはり一番の驚きと衝撃だったのは『F F Gとの経営統合、親和銀行との合併』でした。私も当時、発表があった日の朝の日経新聞でその情報を知りましたので、みなさんと同じタイミングでしたし、ほんの一握りの人間以外は誰も知らなかったというのが事実です。それから『公正取引委員会とのやり取り』や「F F Gグループ以外への借換サポート」、『経営統合』、『銀行合併』および『店舗統合』と、誰もが初めて経験する大きな壁が矢継ぎ早に発生しましたが、お客様を始めとした皆さまのご協力により何とか乗り越え、やっと業務としては巡航速度に戻ってきたのかなと思っております。

さて、ここからは『希望の灯』に話を繋げていきたいと思いますが、世界基準で言いますと話があまりにも大きくなりすぎてしまうので、私が今日お話ししたいのは『日本の未来』についてです。現在の日本は、構造的に深刻な問題を数多く抱えています。1つは少子化です。最近、新聞紙面で衝撃的な数字が数多く乗っていますが、2048年（今から25年後）には日本の人口は1億人を割ると言われています。加えて、資源高や円安の進行による貿易赤字の拡大、E VやAIなどの先進的な研究開発の遅れなど、数え上げればきりがありません。日本人は、これからどんどん貧乏になっていくのではないか、今の子供たちが大人になった時にとんでもない世の中になっているのではないか、とあるセミナーを受けるまでは私も漠然とした不安感を覚えていました。ところがあるセミナーに参加し胸に響いた話として、確かに貿易赤字は拡大しているが、それを含めた日本の経常収支は1980年以降一貫して大幅な黒字を確保している。

今まで海外へ投資を続けてきた財産による収益や、配当収入が大きく貢献しているとのことでした。また、企業業績が順調に推移していることや東証プライム市場の改革も相まって、日本という国が見直された結果、ここ最近の日本の株価上昇に繋がっているということです。更に、日本の個人金融資産は2,000兆円超にも上ると言われており、その約半分が、まだ預貯金に眠っている状況です。この資金が投資として循環し、更なる経済価値を生み出すようになれば、必然的に日本の国力も上がってくるようになる、そのため背景として政府が「貯蓄から投資へ」という流れを促進しているというお話でした。

人間閉塞感を打破するには、希望が必要です。平村会長が今年度運営方針に掲げられている、『奉仕の心でまわりの皆に、そして自分自身に希望の灯をともしよう』という言葉があります。裏を返せば、希望がないと心にゆとりがなくなり、奉仕活動もままならないことだと私は思います。日本もまだまだ捨てたもんじゃない、人生100年時代まだまだ新しいことへチャレンジをしつつ、輝かしい未来と希望を胸に、心に“希望の灯”を灯しながら活動していきたいと思います。

拙い話で申し訳ありませんでしたが、以上で私の卓話を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。